

地域づくりと博物館：国内における人類学的な実践 と考察

永吉, 守
西南学院大学大学院

<https://doi.org/10.15017/2340946>

出版情報：九州人類学会報. 30, pp.27-28, 2003-07-05. Kyushu Anthropological Association
バージョン：
権利関係：

《九州人類学会報30号記念特集(2)

—平成14年「九人研オータムセミナー」より—

セッションA・趣旨説明

地域づくりと博物館¹⁾

—国内における人類学的な実践と考察—

永吉 守

(西南学院大学大学院)

近年、人類学における博物館研究は、人類学の他の研究領域と同様に、ポストコロナ理論による研究動向が顕著になってきた。共犯関係にあったコロナリズムと博物館と人類学(民族学)の省察やそれらの省察をふまえた近年の博物館展示の表象と権力関係をめぐる問題がクローズアップされている。一方、日本では、1970年代以降の博物館ブーム、1980年代後半から1990年代前半の博物館乱立と美術品の投機対象化を経て、1990年代後半以降(いわゆる「バブル経済崩壊期」以降)の博物館停滞期を迎えている。

このような状況の中で、日本の博物館においても近年の博物館研究動向をふまえ、様々な試みがなされ始めてきている。そこで、本セッションでは、特に、近年の日本での地域づくりや地域系博物館をめぐる動きについて、博物館やエコミュージアム、NPO等で実践し、かつ、文化人類学、民俗学、博物館教育学、カルチュラル・スタディーズなどからこうしたフィールドを研究している5人の研究者により発表・コメントを行った。

その際、どのように地域づくりに関与し、またどのように研究対象としているのか、そうした研究をどのようにフィールド実践に還元するのか、といったことに注目した。

以下、発表・コメントの論題とわずかな説明を記して趣旨文のむすびとしたい。

永吉守「エコミュージアム型産業遺産保存・活用のNPOの実践と研究」発表者が中心となって実践するNPO活動を通じた旧三池炭鉱の産業遺産保存・活用実践の経緯と考察」

梶原宏之「アソミュゼへの試み—エコミュゼを超えて—」熊本県阿蘇地域にて発表者が実践する、「参加者」と「エコミュゼ」の二項対立を超えた、「ヒト」が主役の「アソミュゼ」の提唱と実践・考察。

高田浩二「博物館の情報化と〈総合的な学習の時間〉—九州地域ネットワーク事業の試み—」“総合的な学習の時間”などの教育動向をふまえ、博物館の役割と博物館と学校間および博物館間の連携の実践とその考察。

徳安祐子「過疎の村を外へとつなぐ—梶尾神楽と博物館・メディア・研究者—」宮崎県椎葉村梶尾神楽における、地域の社会構築戦略としての「文化の客体化」とその表象に関与したメディアや学芸員の役割の研究。

福住廉「アートの実践からみた〈地域づくり・博物館・人類学〉批判」上記四者の発表に対して、自らのオルタナティブなアート実践からのコメント。

注

- 1) 本稿では、一般にいう博物館・美術館・資料館・アートスペースを含めたものの総称として、「博物館」という用語を使用しており、特に個別呼称の境界性を明確に弁別することを意図したものではない。したがって、有元健・毛利嘉孝 [2002: 428] の「ミュージアム」という用語と互換的なものとして用いる。

参考文献

- クリフォード、ジェイムズ 2002 [1997] 『ルーツ』月曜社。
有元健・毛利嘉孝 2002 「訳者解説 人類学的歴史批評の冒険」ジェイムズ・クリフォード『ルーツ』pp.412-431、月曜社。
Thomas, Nicholas. 1991. *Entangled Objects: Exchange, Material Culture, and Colonialism in the Pacific*. London: Harvard University Press.